美幌博物館　月刊情報誌

GREEN LETTER
グリーンレター

Vol.304
2022/8/01

今月の一枚
今月のイベント
参加者募集
GREEN COLUMN
01. 福住フタロップ遺跡
02. 花火の絵画小史

今月の一枚

Photo

「小麦畑と博物館」

表紙写真・文／八重柏誠

　博物館の前にある小麦畑も黄金色に染まりました。爽(さわ)やかな風を受けて穂先も波打つように揺れています。綺麗(きれい)な景色もそろそろ見納め、間も無く収穫がはじまります。

Event. 今月のイベント

特別展「びほろ町４公園の草花図鑑」 ～10 月 23 日（日）

「夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル」 ～8 月 31 日（水）

ロビー展「すごい標本！すごい資料！」 ～10 月 5 日（水）

博物館講座（自然編）「日本人は昆虫がお好き？」 8 月 20 日（土）

博物館特別講座「武士、画人、詩人ー蠣崎波響 激動の生涯ー」 8 月 25 日（木）

プチ工房「ミニいかだをつくろう！」 8 月 5 日（金）, 6 日（土）

Information. 参加者募集

博物館講座（自然編）「日本人は昆虫がお好き？」

● 8/20 ㈯ 10:00-12:00 ●町民会館 3 階 中ホール ●参加費 300 円 , マスク ●保科英人氏（福井大学）●美幌博物館へ電話申込み（-8/19）。対象は中学生以上～一般（小学 3 年生以下は保護者同伴）。定員 50 名で締切。

博物館特別講座「武士、画人、詩人ー蠣崎波響 激動の生涯ー」

● 8/25 ㈭ 16:00-17:30 ●博物館 1 修理室 ●参加費 無料 , マスク ●井上研一郎氏（宮城学院女子大学名誉教授）●美幌博物館へ電話申込み（-8/14）。対象は中学生以上～一般（小学 3 年生以下は保護者同伴）。定員 16 名で締切。

プチ工房「ミニいかだをつくろう！」

● 8/3 ㈮ , 4 ㈯ ① 10:30 開始 , ② 13:00 開始 , ③ 14:30 開始 , 所要時間約 1 時間 , 作品ができ次第終了 ●美幌博物館 1 階 講座室 ●参加費 300 円 , マスク ●松田真莉子（美幌博物館）●美幌博物館へ電話申込み (-8/2)。各回定員 12 名で締切。小学 3 年生以下は保護者の同伴が必要 。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため , 発熱がある , あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは , 内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により , 一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上 , ご参加ください。

【駐車場のご案内】

10/31 ㈪まで、駐車場整備工事のため正面駐車場はご利用できません。
階段下の大駐車場をご利用ください。

今月の休館日

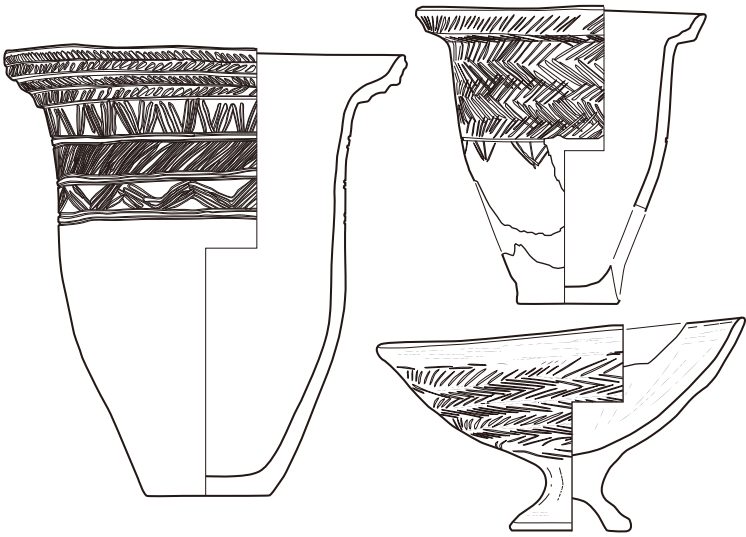
1 日， 8 日
12 日， 15 日
22 日， 29 日

〈凡例〉●日時 ●場所 ●費用 , 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN
グリーンコラム

福住フタロップ遺跡

写真・文／八重柏誠



福豊川と美幌川の合流点付近に、福住フタロップ遺跡が立地しています。この場所は、アイヌ語でフットゥタヌプと呼ばれていました。トド松林に接して流れる川という意味です。このアイヌ語から、福豊川はフタロップ川と呼ばれていました。福豊川は、福住地区と豊富地区の地名から命名したものです。この地区は杵端辺（きねたんべ）と呼ばれていましたが、昭和12年の字名改正で、福住は住人の多くが福島県出身者だったこと、豊富は実り豊かな地区を作りたいという願いからそれぞれ名付けられたものです。

遺跡は古くから知られており、河岸段丘上に住居跡と見られる窪みが、多数あったと伝えられています。昭和２７年、美幌町郷土史研究会によって発掘調査が行われ、竪穴住居跡から多数の擦文土器が出土したと報告しています。出土した土器の一部は、博物館の第１展示室で展示されています。この土器は、本州の土師器（はじき）の影響を受けて作られるようになりました。土器の表面に、木のヘラで擦ったあとが特徴的であることから、擦文と呼ばれています。土器の上半部には、刻み目状の文様が付けられており、福住フタロップ遺跡では、甕形（かめがた）の他に、高坏型（たかつきがた）の土器も出土しています。この土器が使われていた頃、人々はサケ・マス漁に強く依存していたようで、河川に隣接した場所に遺跡を残しています。

落差工のある福豊川は、サケやマスが遡上しない川となっているものの、魚道の設置工事が始まったことから、再び魚たちが戻ってくる日も近いと聞いています。擦文時代のようにサケやマスが遡上する川になることを祈りたいですね。

02 GREEN COLUMN
グリーンコラム

花火の絵画小史

写真・文／松田真莉子

各地で花火大会がはじまるも、コロナ対策に気が抜けない夏が続いています。さて、みなさんは花火がいつ誕生したのかご存知ですか？花火は火薬と金属の粉末を混ぜて包み、燃焼・破裂させるもので、そのはじまりは、中国の錬金術師によって生み出された、情報を伝えるための「狼煙（のろし）」だったそうです。そして現在のような光や音、色を楽しむ花火の起源は、14 世紀のイタリアと言われています。

夜空を彩る、美しい花火を描いた作品は数知れず。なかでも重要なのは、ジェームズ・マクニール・ホイッスラー(1834-1903) の《黒と金色のノクターン―落下する花火》（1875 年頃制作）でしょうか。ホイッスラーは、古典絵画のあらゆる規則（細部の綿密さや輪郭と色の鮮明さ、画題を神話や歴史的な英雄とすることなど）から脱して、人々の生活や風景を感覚的に描くことを目指した、「印象派」と同時代の画家です。ホイッスラーが《黒と金のノクターン》を発表した当時は、上述のような「印象派」の登場により、徐々に表現の幅が広がり始めてはいたものの、まだまだ古典的な作風が重視されていました。そのため、ぱらぱらと落下する火の粉と煙を主題に、素早く軽い筆遣いで描かれた本作は、評論家ジョン・ラスキンによって、絵の具をぶちまけて数時間で仕上げたような失敗作、などと酷評されました。こうした評価にホイッスラーが名誉棄損を訴えたことで、なんと両者が裁判で争う事態にまで発展。美術関係者のみならず、文学者や思想家たちを巻き込み、多くの議論を呼びました。

絵とともにその歴史もみてみると鑑賞が深まります。コロナ禍の夏、花火を題材とした作品を検索して過ごすのも良いのではないでしょうか。

【発行】
美幌博物館

【デザイン・編集】
城坂結実・松田真莉子

【お問い合せ先】
美幌博物館
北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4
Tel ／ 0152 (72) 2160　Fax ／ 0152（72）2162
mail ／ museum@town.bihoro.hokkaido.jp
http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/
無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき

花火と聞くと、子どもの頃に総合学習で訪れた花火工場が思い出されます。各班で見学先を決め、学んだことを後日発表するという授業でした。発表内容はさておき、花火玉の中身を見せていただいたときの感動と興奮は、20 年以上経った今でも覚えています。（松田）